

日本エアコミューター株式会社所属ATR式42-500型JA04JCの
航空事故調査について
(経過報告)

令和5年1月19日
運輸安全委員会(航空部会)

運輸安全委員会は、令和4年2月15日、大阪国際空港の北北西約5.5km、高度約2,700mにおいて、日本エアコミューター株式会社所属ATR式42-500型JA04JCが、飛行中に動揺し、乗客1名が負傷した航空事故について、令和4年4月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報をもとに、さらに分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本件調査については、本航空事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本航空事故の責任を問うために行うものではない。

1. 航空事故の概要

日本エアコミューター株式会社所属ATR式42-500型JA04JCは、令和4年2月15日(火)、但馬空港を離陸し、大阪国際空港に向けて飛行中、機体が動揺し、乗客1名が負傷した。



図1 事故機

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和4年4月12日、航空事故として通報を受け、本航空事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、航空機及び気象の調査、飛行記録装置等の記録の解析等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

当該機は、令和4年2月15日、機長ほか乗務員2名、乗客15名、計18名が搭乗

し、日本航空2326便として但馬空港を離陸した。

同機は、大阪国際空港の北北西約55km、高度約2,700mで巡航中、動揺が発生し、約1分間続いた。座席12Dに座っていた乗客は、シートベルトを締めていたが、後日、腰に違和感があったため、医療機関で受診したところ骨折と診断された。

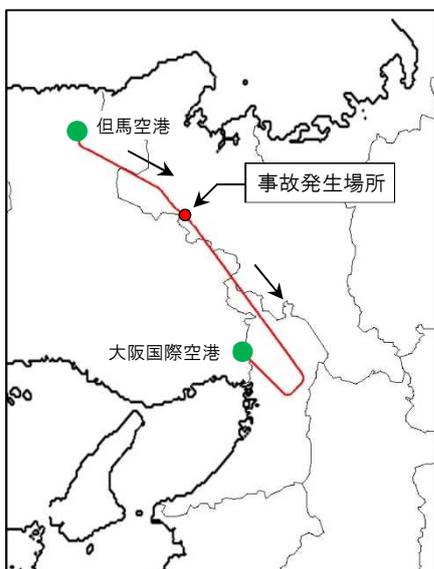


図2 推定飛行経路

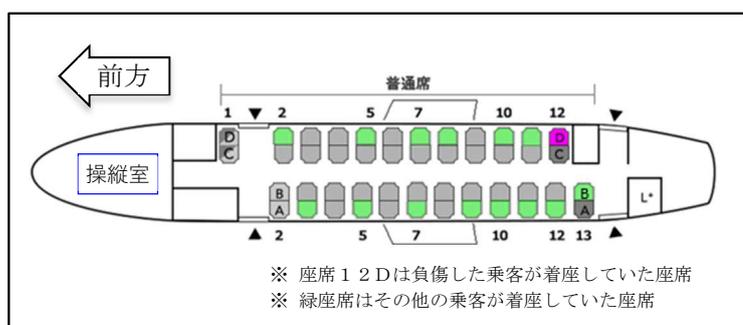


図3 同機の座席図

(2) 死傷者

乗客1名 重傷（第2腰椎圧迫骨折）

(3) 航空機の損壊

なし

(4) 気象

事故当日、日本海北部にある低気圧が北東進して、山陰への影響はなくなり、徐々に回復傾向となっており、近畿から山陰にかけてはところどころで弱い雨雲を観測しているが活発な雨雲は観測されていなかった。

4. 今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、飛行中の動揺による当該座席における揺れの強さや運航乗務員による気象判断の状況など、更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。